

M & A など成長戦略推進

TSIホールディングス E C 事業も加速

TSIホールディングスは成長戦略を進め、利益体質を強める。コスト削減に取り組みつつ、海外を含めたM & A (企業の合併・買収) や提携を積極化。成長分野であるE C 事業も強化する。

成長戦略の一環として、協業パートナーとのネットワークを生かしたM & A や提携を進める。昨年7月、日本政策投資銀行と資本・業務提携を結んだ。LVMHモエ・ヘネシー・ルイ・ヴィトンのアジアにおけるプライベートエクイティファンド、エル・キャピタル・アジアとの関係も強化する。エル・キャピタル・アジアは飲食やファ

ッションなどでアジアの企業・ブランドの買収や資本参加を進めている。こうした事業の日本での展開のうち、TSIHDは「(エル・キャピタルの) 知見やネットワークを生かし、アクセシブルなラグジュアリーブランドなどの紹介」を受ける。

E C 事業も加速する。「スマホファースト」の時代に合わせ、各ブランドのアプリ開発を推進。ブランドごとのE C サイト開設も積極化し、前期(15年2月期)に11だったサイト数を今春をめぐり31まで増やす。今期のE C 化率は、前期比1・2%増の10・8%を見込む。15年3～11月の業績は5・5

%の減収で、営業利益は24・9%の大幅減となった。上期に実施したブランドの廃止や今秋冬の「記録的な暖冬」による主力の婦人服の不振が響いた。一方、上期に実施した構造改革によるコスト削減策が実り、9～11月単体での営業利益は12・3%増と改善した。

今秋冬のアパレルの不振を受け、通期の業績予想は売上高を1700億円から1670億円、営業利益を24億円から12億円に下方修正する。一方、純利益は資産売却などにより14億円から29億円に上方修正する。中期経営計画については「これから詰める」としているが、最大のKPI (重要業績評価指数) とするROE (株主資本利益率) 5%は据え置く。